

## 国立成育医療研究センター 救急診療部

- ① 救急科領域関連病院機能：日本救急科専門医指定施設・日本集中治療専門医研修施設
- ② 指導者：常勤医師 9 名  
うち、救急科専門医 7 名 小児科専門医 8 名 集中治療専門医 2 名  
PALS インストラクター 5 名
- ③ 2022 年 救急車搬送件数：4,332 件
- ④ 2022 年 救急外来受診者数：23,133 名
- ⑤ 2022 年 救急からの入院数：2,750 名（うち PICU 入院 297 名）
- ⑥ 研修部門：小児救急外来, PICU, 麻酔科, 放射線診断部, NICU, 一般小児病棟
- ⑦ 診療・指導領域：  
小児救命救急手技・処置  
小児救急症候に対する診療  
小児外因救急に対する診療  
重症小児の施設間搬送（小児専門搬送チーム）

### 【成育医療研究センター救急診療部と研修内容】

救急外来は1次から3次救急医療を担い、walk-in、救急車を問わず患者を受け入れている。小児であれば内科系疾患、外因系疾患を問わず受け入れており、約25%は外傷患者である。近隣施設や診療所との地域医療連携を行う一方で、院内の専門診療科とも連携して診療をおこなう。よって、感冒や軽症外傷・熱傷などから、重篤な基礎疾患がある症例、在宅診療症例の急変など幅広く診療を行う。また、近隣患者のみならず、都内全域および近県から重症患者の受け入れを行い、小児肝移植症例など特殊な治療に関しては日本全国から受け入れをしている。転院搬送症例は約500例であり、うち重篤な状態で搬送のリスクも高いと判断された約70例は当院の小児専門搬送チームにより搬送される。重篤な小児例の集約化が治療効果を上げることは明らかであり、国内最多入室数を誇るPICUへの患者搬送を中心として、搬送チームは24時間起動可能で、緊急要請に迅速に対応している。搬送手段は、救急車・ドクターカーのみならず、新幹線・ヘリコプター・旅客機など多彩な搬送方法かつ、長距離搬送の実績も豊富であり、重症小児の搬送医療研修が可能である。

研修プログラムとしては、2-3年の小児救急の研修において軽症・重症問わずに小児全般の救急診療ができるようになることを目的としたフェロープログラムを掲げている。小児救急診療を中心とし、集中治療・麻酔科・放射線科短期研修に加えて、フェローの背景により、必要に応じて新生児から思春期までの小児科診療を組み込んでいる。当施設では、小児救急診療では重篤症例が少ないことも踏まえて、on the job トレーニングの他にシミュレーション、各手技練習、症例検討を中心とした off the job トレーニングを週間予定として取り入れている。

希な疾患の診療に関しては症例報告、症例数の多さを利用した臨床研究などの実施によ

り、本邦における小児救急医療について情報発信を行うことも研修内容に含めている。